

***ラピッドレクチリニアという不遊レンズ収蔵**

国立天文台太陽物理部 OB の入江氏から、イギリス製の「J.H. Dallmeyer 25X21 Rapid Rectilinear」と書かれたレンズ(写真1)を譲り受けた。このレンズは1866年J.H. Dallmeyerによって発明・設計されたもので、刻印に PATENT の文字が見える。25X21 の左側にシリアル No. 44815、右側に LONDON と刻印がある(写真2)。



写真1



写真2が名盤の刻印

レンズの口径は 10cm、レンズ間距離は約 15cm、中央に口径 6cm の絞りがあある。文献によるとラピッドレクチリニアは真ん中に絞りを置き、両側に対象に同じ色消しレンズ（クラウンの凸、フリントの凹）を配置したものである（図 1）。

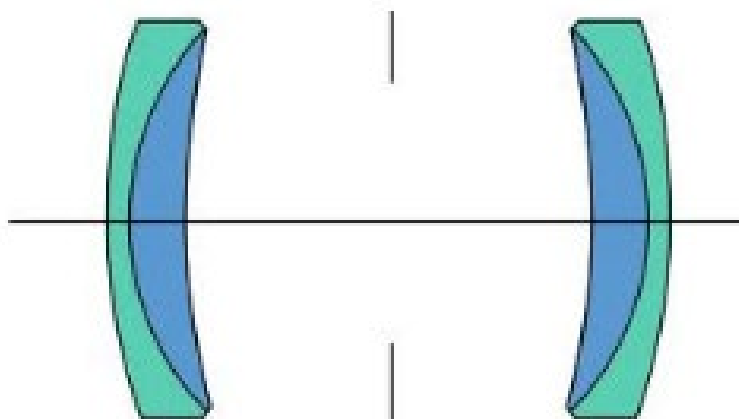


図 1

写真 3 が中央に置かれる絞りを抜いて撮ったものである。



写真 3 絞りを抜いたところ

このレンズは発明当時、速写直正レンズ、速写直線レンズと呼ばれ、建物などが直線に撮影できる風景、人物用レンズとして重宝された。このレンズは、球面収差は修正されて

いたが、像面湾曲、非点収差、コマ等が残っている。

イギリスの J. H. Dallmeyer のこの発明と同じ頃、ドイツのシュタインハイルが同一の構造のアプラナットレンズを発明している。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp